



ほ、多、る

賃金アップはブーム？

大手企業を中心に、初任給をアップする動きが高まっています。サントリーホールディングス、キリンホールディングス、ビックカメラ、日本生命、イオン、伊藤忠商事、みずほフィナンシャルグループなど賃上げを表明・実施した企業が増えています。しかし、一部では「賃上げブーム」なのではという事も言われていますが、今後はどうなっていくのでしょうか？

初任給のアップは、労働者の生活水準の向上や購買力の向上を活性化させる可能性があります。特に、若年層の競争を高めることで地域経済や国内市場の活性化に繋がります。

また、企業が初任給をアップすることで優秀な人材を確保しやすくなり、長期的な競争力の向上にも繋がると考えられます。

その反面、中小企業や経済基盤の弱い企業では、初任給のアップが人件費の増加を招き経営を圧迫する可能性があります。また、初任給のアップが進む中で、企業がコスト削減のために新卒採用人数を減らしたり非正規雇用を増やしたりする可能性も出てきます。特に、中堅社員やベテラン社員との賃金格差が拡大し不満が生じる可能性があります。

しかし、初任給は上がっているが、既存社員の賃金は上がっていない状況が起こるのはなぜなのでしょうか。企業の「給与の原資」は基本的に一定であり、どこかを増やせばどこかを減らして差し引きをゼロにしなければならない「ゼロサム」という仕組みになっています。

初任給を上げたのであれば、その分を既存社員の賃金からまわしてこなければなりません。実際、初任給が上がった分、中堅やベテラン層の賃金は据え置き、もしくは実質減少しているはずです。

景気の急回復が見込みにくい状況であれば、給与の原資が増えることは考えにくく、新卒採用に注力している企業においては「初任給は上がるのに実質賃金は上がらない」傾向は今後も続くと考えられます。

最近注目されている、103万円・106万円・130万円とさまざまな「年収の壁」があります。



働きたいのに働く時間を調整して年収を抑えているこのちぐはぐな制度を、少しでも早く是正して労働環境が停滞から活性化され、わかりやすくシンプルな制度になることを期待したいものです。

◆建設的な生き方へのお手伝い（Just do it!）◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】継続する技術

戸田大介 著 ディスカヴァー・トゥエンティワン
ホームページ <https://primecorporation.jp/>

発行日 2025年2月1日 Vol. 268

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡邊敏徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 1660 番地

Phone 0554-22-2810 Fax 0554-67-8006

おみくじ

正月と言えば初詣、そしておみくじを引く方が多いと思います。私も毎年引きます。「おみくじ」を調べてみると、「元三大師(がんさんだいし)」の名前が出てきます。平安時代の天台宗の高僧良源、慈恵大師のことで、おみくじを考案したと伝えられています。

現在のおみくじのルーツは、明治38年(1905年)に遡ります。二所山田神社21代目宮司・宮本重胤が、当時男性しかなれなかった神職に女性も登用すべきだと訴えて大日本敬神婦人会を設立しました。この運動や機関誌「女子道」を発行する資金を捻出するために考え出されたのが「おみくじ」です。

気になる封入割合はその場所によって異なるようですが、おみくじの元祖である元三大師の記した「元三大師御籤帳(みくじちょう)」には、大吉16%、吉が35%、凶が29%、その他で20%と記されています。この伝統が受け継がれ浅草寺では、大吉17%、凶は30%。吉16%、末吉6%、末小吉3%、半吉4%、小吉4%とこれに近い割合になっています。しかし凶が約3割は多く、現在は凶や大凶を引くと縁起が悪いために、その数を少なく調整している寺社もあるそうです。

おみくじの順位で最も一般的な7段階のものは、大吉、中吉、小吉、吉、末吉凶、大凶である。伊勢神宮などでは、大凶の無い全6段階、京都伏見稻荷大社ではなんと全17段階もあるそうです。みなさんの今年のおみくじはどうでしたか…。



【座右の銘にしたい名言】



何より大事なのは、人生を楽しむこと。幸せを感じることそれだけです。

オードリー・ヘップバーン (英国の女優)